

カンブリア宮殿の取材の裏側を綴った内容で読みやすく、短時間で読み終わった。

日吉歯科で35年取り組んだことが、地域の人達の意識を変え、そしてテレビや本を通して社会に認知され、他業種の企業と連携することでまた新たな取組が生まれ、今後新しいさまざまな取組が進んでいくのではないかと思う。

その取組みのなかで、歯科衛生士として企業の方々と話し合い意見交換しながら実際に形になっていく過程がとても勉強になり、やりがいがある、そして他の業種の方と話し合いをさせてもらうことで、やっぱり日吉歯科だからできること、日吉歯科のデータがあるからこそ生きてくるものがあると実感する。

今まで35年間積み上げてきた患者さんの口腔内を目の当たりにすることによって、入れ歯もない健康な口腔内を診るとその方の人生が日吉歯科と一緒に歩んでいることを引継ぎをした患者さんからその重みを感じるが多々ある。そしてなによりもお話しさせてもらうと元気でパワフルである。この前も81歳になり自分の歯でなんでも食べられるという方で「100歳まであと19年しかないのよね～この前絵手紙を初めて、まだやりたいことが一杯あるし、せっかくもらった命だからまだまだ楽しまないと！！」その方にバイタリティーに感心元気をもらったのだった。自分の歯で何でも食べられた、元気で生き生きと長生きするとは？ということを実感している。

本の中にもあったが、3万人分のカルテは、日吉歯科の心臓であり、その人が歩んできた人生のあかしなのだと思う。そのカルテを記録しきちんと残っているのは全世界を探しても日吉歯科しかないので、私達もその価値に気がついて活用できる方法をもっと考えていきたいと思う。